

CData Connect AI

の強み

CData Connect AI は CData Software, Inc. の登録商標または商標です。その他記載の会社名・製品名は各社の商標または登録商標です。

CData Connect AIは「MCP市場のインフラ企業」

特に、Excel・業務データ活用領域（例：dbSheet）との親和性は非常に高く、今後は単なるデータ接続製品ではなく

「企業データをAIエージェントへ安全に供給するデータレイヤー」

①

300+接続資産

②

セマンティック
レイヤー

③

エンタープライズ
ガバナンス

④

Microsoft
連携

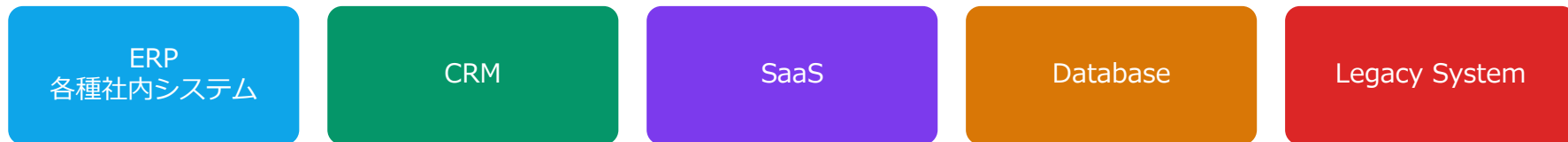
競合比較

項目	CData Connect AI	Microsoft Copilot 標準接続	Individual MCP Server群	Databricks系
接続先数	350+	限定的	個別構築	主に分析基盤
MCP管理	◎	△	×	△
セマンティック理解	◎	△	×	○
ガバナンス	◎	◎	△	◎
導入速度	◎	○	×	△
中堅企業向け	◎	○	△	△

① 300~350以上の業務システム接続資産

CData最大の強みはAIではなく、15年以上蓄積してきた「データ接続技術」

Connect AIはその資産をそのままMCP化しています。



競合の多くは単一SaaS接続のみ

Salesforceだけ / Snowflakeだけ / SharePointだけ

CDataはオンプレミスのDBを含む全システムを一括接続 ← 大きな差別化

② セマンティックレイヤー — 競合との最大差別化ポイント

一般的なMCPサーバーの課題

データをAIに「渡すだけ」

企業AI失敗の主因:

データは見える

しかし意味が分からない

Connect AI のアプローチ

データの意味・関係性ごとAIへ渡す

例:

顧客 / 受注 / 請求

サポートチケットの関係性を

理解した状態でAI利用可能

③ エンタープライズ向けガバナンス

企業導入では以下が必須 — Connect AIはすべてを前提として設計

01

誰が見たか

アクセスログの完全記録・追跡

02

何を操作したか

操作履歴・変更内容の監査証跡

03

権限管理

ソース権限の継承・ロールベースアクセス制御

04

監査ログ

コンプライアンス対応の完全な監査証跡

個人向けMCPサーバーとの決定的な差：エンタープライズグレードのセキュリティ管理

④ Microsoftとの連携 — 2025年後半から急速進展

企業AI市場ではMicrosoftエコシステムが圧倒的に強力 — この追い風は非常に大きい

Copilot Studio

ノーコードAIエージェント構築
企業向けCopilotカスタマイズ

Azure AI Foundry

企業向けAI開発・デプロイ基盤
モデルファインチューニング対応

Agent 365

Microsoft 365全体での
AIエージェント統合

公式発表済み

Copilot Studio / Azure AI Foundry / Agent 365 との接続が正式に発表。
Microsoftエコシステムへの深い統合が競合優位を一層強化します。

まとめ

①

300+接続資産

15年超の接続技術。ERP・CRM・SaaS・DB・レガシーを一括MCP化。競合には不可能な規模。

②

セマンティックレイヤー

データの意味・関係性ごとAIへ提供。「見えるが意味不明」な企業AI失敗を防ぐ唯一の設計。

③

ガバナンス設計

アクセス制御・監査ログ・権限管理を前提設計。個人向けMCPとの決定的差別化。

④

Microsoft連携

Copilot Studio・Azure AI Foundry・Agent 365と公式接続。最大エコシステムへの搭乗。

→ 「企業データをAIエージェントへ安全に供給するデータレイヤー」として唯一無二のポジションへ